



うちどくファミリー 大募集!

「うちどく(家読)」とは、家族みんなで同じ本を読み、読んだ本について話をする新しい読書スタイルです。難しいルールはありません。家族みんなで同じ本を読むことをきっかけに、読書の習慣を共有化し、家族のコミュニケーションを図ろうという試みです。

市中央図書館では、この「うちどく(家読)」という活動を進めています。中央図書館内で、おすすめ本の紹介や読んだ本を記録する「うちどく用紙」を配布しています。また、春のこどもとしょかんまつりでは、「うちどく(家読)」を実践されているご家族の体験発表会を企画しています。そこで、体験発表会に参加していただけるご家族を募集します。

これから「うちどく(家読)」を始めてみようというご家族、大歓迎です。皆さんも家族で同じ本を読んでも、もつと読みニケーションしませんか?

詳しくは、市中央図書館までお問い合わせください。



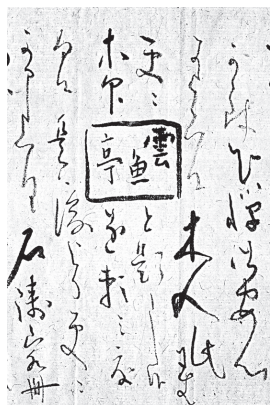
返し忘れの資料はありませんか?

未返却資料(本、雑誌、紙芝居、CD、カセット)がある利用者の方には、図書館の利用を制限することがあります。お手元に返却期限を過ぎた資料があれば、早急に返却してください。特に、12月の冊数無制限貸出中に借りた方はご注意ください。休館日や夜間閉館中は、返却ポストをご利用ください。中央図書館のみ、CDも返却ポストに返却できます。

今月の行事予定 <場所：市中央図書館>

- ◆映画上映会◆ 2月21日(日)午後2時
『ペイ・フォワード(洋画・吹替版)』
- ◆牛久おもちゃ病院◆ 2月21日(日)午前10時～正午
- *おはなしよんで…毎週水曜日午後2時
- *おはなし会…毎週土曜日午後2時
- *おはなしとんとん…毎月第2日曜日午前11時
- *うさちゃんきいて…毎月第3金曜日午前10時30分

今月の休館日 ★全館休館日…2月8日(月)・22日(月) ★エスカード分館のみ休館日…2月17日(水)



聖 小川芋銭

再び芋銭を考える⑬

昨年開催された「第3回小川芋銭展」会場において、小川芋銭記念館に関する質問がありました。記念館は、別に「雲魚亭」とも称されていますが、「魚雲亭」という人もあるので、どちらが正しいのかという内容でした。

芋銭に関する書物中には、確かに両方の呼称が存在します。どちらを採用するかを考えると、芋銭の自筆資料が遺っていれば、問題は一挙に解決するのですが…。

実は、そのような資料が存在するのです。芋銭は、酒井三良を紹介して、篆刻家・長曾我部木人に「雲魚亭」の印章制作を依頼しました。該当する部分を図版として掲げました。中央部分の四角く区切られた中に、「雲魚亭」と書かれているのが分かります。三良あて書簡の日付は、昭和11年12月31日です。それまで滞留していた文村(現利根町)を引き払い、芋銭が、新築のアトリエに入居したのは、昭和12年9月末のことです。このことに付随してか、命名も同時期といわれてきました。しかし、「雲魚亭」なる呼称は、書簡に見るとおり、前年末には決められていました。

次に、「魚雲亭」という呼称について調べてみます。書物などを探してみると、俳句雑誌『ちまき』昭和12年11月号に、同誌主宰小村柳月(一文「牛久沼三人時雨」が掲載されており、その中に「魚雲亭」という文字が認められます。筆者の柳月は数度牛久へ足を運び、その訪問記中に「魚雲亭」という語を何度か使用しています。

また、同誌には、文責が芋銭にないものも掲載されています。芋銭の自筆資料をさておき、それらをもって、「魚雲亭」こそが正しい呼称であると主張することは難しいでしょう。

小川芋銭研究センター 北畠健